



日本プライマリ・ケア連合学会
中部ブロック支部



発行人：佐藤 寿一
事務局 〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町 65
名古屋大学医学部附属病院総合診療科 内
Tel.052-744-2951 Fax. 052-744-2951
E-mail:juichi@med.nagoya-u.ac.jp

ニュースレター No.42(2023.6) 本号の編集担当者 森田浩之

【支部情報】

報告

1) 『中部ブロックポートフォリオ発表会*2023』

2023年3月4日(土) 14:30-17:20 Zoomによるオンライン開催

コロナ禍で昨年に引き続き ZOOM によるオンライン開催となりました。今年は7名の専攻医にショーケースポートフォリオをご発表いただきました。昨年と同様にレベルの高いポートフォリオを提示いただき、質疑応答ではチャットに加え Google ドキュメントを併用し、盛況な発表会となりました。また恵寿総合病院 伊達岡 要先生に「専門医・指導医のポートフォリオ」についてミニレクチャーをしていただきました。

【最優秀ショーケースポートフォリオ賞】

南砺市民病院総合診療プログラム 案浦 峻先生

【優秀ショーケースポートフォリオ賞】

藤田医科大学総合診療プログラム 山田 智也先生

【実行委員会特別賞】

みのひだ地域医療総合診療プログラム 清水 洋範先生

(文責 中部ブロック支部 PF 発表会実行委員長 安藤友一 (名古屋大学総合診療科))

2) 『新家庭医療専攻医・総合診療専攻医合同オリエンテーション』

2023年5月27日(土) 14:00-17:30 Zoomによるオンライン開催

総勢 72名(半数弱が新専攻医)の参加を得て盛大に開かれました。本企画は新専攻医がスムーズに研修を開始できるように、毎年各支部で企画運営されており、今年で7回目です。専攻医が研修を乗り切れるためのサバイバル術の伝達(情報伝達)、各プログラムの専攻医同士の交流の2点を主目的として、「研修手帳活用術」、「振り返りの達人はポートフォリオが得意」、「生涯教育のススメ」の3つのセッションを行いました。3つの柱は変わりませんが、さらに複雑になる研修制度、研修手帳、ポートフォリオに対応するために、新専攻医だけでなく、先輩専攻医、指導医も学習者としての参加を促してご参加いただきました。

事後アンケートでは運営におけるリスクヘッジへの高評価、研修手帳への更なる理解、ポートフォリオのセッションでは理解の深まり、生涯教育セッションでは横のつながりへの期待など、おおむね好意的な感想が寄せられました。(文責：宮崎景)

予定

1) 『第12回日本プライマリ・ケア連合学会中部ブロック学術集会』

2023年11月26日(日) 開催地：名古屋

2) 『中部ブロックポートフォリオ発表会*2024』

2024年3月2日(土)

●三重県

報告

1) 総合診療 虎の穴 卷之十八 開催

Medically Unexplained Symptoms

日時：2023年3月4日（土）16:15-18:25

会場：三重大学医学部多目的講義室／Zoomとハイブリッド

演者：二宮隆仁先生（市立伊勢総合病院） 「症例呈示」

西山順滋先生（関西医科大学心療内科学、関西医科大学附属病院 総合診療科）

「それ、本当にMUDですか？～正しいMUS診療を一緒に考えよう！～」

2) 救急ワークショップ

救急患者への初期対応

日時：2023年5月19日（金）13:30-16:30

会場：三重大学医学部探索医学研究棟3階

講師：宮松弥生先生（市立伊勢総合病院）



3) 総合診療 虎の穴 卷之十九 開催

日時：2023年5月30日（火）19:00-20:30

会場：Zoomによるオンライン開催

演者：山下大輔先生（オレゴン健康科学大学家庭医療学科，OHSU）

演目：総合診療・家庭医療での海外留学の奨め

予定

1) 総合診療 虎の穴 卷之二十 開催予定

急変対応が得意な総合診療医になるの巻

日時：2023年7月1日（土）13:00-17:00

場所：三重大学医学部附属病院 外来棟5階ホール+スキルズラボ

演者：日下伸明先生（志摩市民病院）

江角悠太先生（志摩市民病院）

林俊太先生（志摩市民病院）

江角亮先生（三重中央医療センター）

へき地でも都市部でも、急変対応は総合診療医に必要な不可欠なスキルです。今回は初期研修医および医学部高学年の方を対象に、シミュレーション教育に習熟したスタッフがリアルな急変対応のトレーニングをお届けします。CPA、ショック、急変時病状説明まで、自信を持って対応できる丁寧に教えます。急変対応に自信がない方、救急総合診療の世界を覗いてみたい方、是非ご参加ください。

●富山県

報告

<とやま総診のホームページリニューアル！>

とむじぇり（とやま総診）のロゴ、ホームページをリニューアル致しました！

それに伴い、ホームページ内のブログを「とむじぇり通信」に名称を改めました。今後勉強会情報や開催報告、コラムなどを配信していきたいと思っています。

新ロゴ、ホームページは私たちとむじぇりメンバーのありたい姿を、オレンジのチームカラーはそのままに、ひかりをテーマに表現しました。一人一人、だれもが持つひかりを温かく育てたい、人々のひかりによって自分も成長していきたい、そんなひかりの集まるこのまちで、まちに生きる人々と共に在りたいという思いが詰まっています。是非とむじぇりのページをご覧ください！ とむじぇりホームページ URL↓

<http://thecigm.med.u-toyama.ac.jp/tomgeli/>

<PF 勉強会>

【4月 PF 勉強会】

新年度一回目のコアレクチャーは、「患者中心の医療」でした。

患者中心の医療とは「医療者が患者の思いやその背景を十分に理解し、患者も医師の説明を十分に理解した上で、共に現在の健康問題の解決に向けて協働していくというモデル。」と説明できます。

レクチャー内で、患者の要望を一方向的に受け入れる商業的なモデルでもなく、接遇のあり方でもない、共通の理解基盤を探るためのプロセスであると説明されていたことはとても良かったと思います。

質疑応答では、三次救急も受け入れるような大病院から、中小病院、診療所などのフィールドの違いでこのモデルの運用にどのような違いが生まれるのか、議論がありました。やはり大病院クラスだところいったモデルを使っでの介入が時間的に難しいと発表者の先生の意見がありました。

PF 発表は3例の発表がありました。筆者は「人生の最終段階におけるケア」の発表に参加しました。このポートフォリオでは、人生の最終段階の判断や、ACP がキーワードになります。本文ではそれがわかる記載になっているかどうか、について建設的な意見が交わされました。発表者の先生もよい臨床経験をしていたと思います。

今回は新専攻医の先生や新たなスタッフ、臨床研修医、他プログラムのオブザーバーも参加してくれ、大変盛り上がった会になりました。

【5月 PF 勉強会】

5月のレクチャーテーマは、「家族志向のケア」でした。

家族志向型ケアの原則などの基本的な内容から、実際に実践ですぐに生かせる技術やツールの紹介まで、どの世代の専攻医にも勉強になる内容であったのではないかなと思います。当プログラム指導医の先生が書かれた記事も紹介され、1人1人の専攻医が自分でさらに学びを深めてくれることを期待しています。

後半はいくつかのグループに分かれて、専攻医のPF発表を行いました。未分化な健康問題やリハビリテーションなどが領域として取り上げられていました。議論は各チームとも盛り上がったようです。

<臨床研究勉強会>

【令和5年度第一回臨床研究勉強会】

今年度第一回目のとむじぇり専攻医/指導医対象のオンライン臨床研究勉強会を4月27日に行いました。

本日のテーマは文献検索！富山大学附属病院総合診療科の北啓一朗先生より文献検索の意義・方法論について多方面からレクチャーいただきました。後半は、学会で症例発表予定の専攻医の発表に関する臨床疑問を、みんなで一

斉文献検索！その後、各自の検索過程、見つかった論文を共有してお互いの **Tips** を学ぶことができました。

<2023年 日本プライマリ・ケア連合学会(JPCA) 学術集会@名古屋>

JPCA2023 が愛知県で行われました。今年もとやま総診からたくさんの学会発表がありました。私たちのグループは16演題・シンポジウムでの発表と、7個の企画の担当をおこないました。学会発表が専攻研修で求められていることもあり、専攻医～若手の先生方の発表が特に増えた印象でした。会場全体も新しいものを歓迎する雰囲気があり、近年では一番活気がある学会だったように思います。来年、再来年もたくさん演題を出し、研究、論文などの成果につなげていきたいです。

●岐阜県

報告

1) 『第4回ぎふ総合診療セミナー』

日時：2023年1月18日（水）20：00～21：00

開催：Zoom

講演：三重大学医学部亀山地域医療学講座 教授 若林 英樹 先生

テーマ：家族志向のケア

参加者：総合診療・家庭医療専攻医・指導医・研修医 13名

2) 『第49回岐阜プライマリ・ケアカンファレンス』

日時：2023年3月17日（金）18：30～20：30

場所：じゅうろくプラザ5階中会議室

症例検討：2症例

講演：岐阜市民病院総合診療・リウマチ膠原病センター長 藤岡 圭 先生

演題：「合併症予防を見据えた血糖管理」

参加者：研修医 21名、指導医 16名

3) 『第4回在宅診療で役立つ超音波検査ハンズオンセミナー（腹部）』

日時：2023年3月11日（土）13：00～15：40

場所：総合在宅医療クリニック

講師：岐阜大学医学部附属病院肝疾患診療支援センター 今井健二先生、岐阜大学医学部附属病院・岐阜県総合医療センター・岐阜病院臨床検査技師 5名

受講者：総合診療・家庭医療専攻医 3名、指導医 3名、研修医 11名

エコーモデル：医学生 6名



予定

1) 『第5回在宅診療で役立つ超音波検査ハンズオンセミナー（胸部）』

日時：2023年7月15日（土）13：00～15：40

場所：総合在宅医療クリニック

講師：三好内科医院院長 服部和樹先生、岐阜大学地域医療医学センター教授 牛越博昭先生、岐阜大学医学部附属病院。岐阜県総合医療センター・岐阜病院臨床検査技師8名

2) 『第5回ぎふ総合診療セミナー』

日時：2023年9月27日（水）20：00～21：00

開催：Zoom

講師：県北西部地域医療センター国保白鳥病院 院長 後藤忠雄先生

テーマ：「あなたのEBMの壁、ちょっとだけでも壊しちゃおう」

3) 『第50回岐阜プライマリ・ケアカンファレンス』

日時：2023年9月22日（金）18：30～20：30

場所：グランヴェール岐山

症例検討：2症例

講師：岐阜大学医学部附属病院脳神経外科 助教 山田哲也先生

演題：未定

●福井県

報告

学生たちが感じた日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

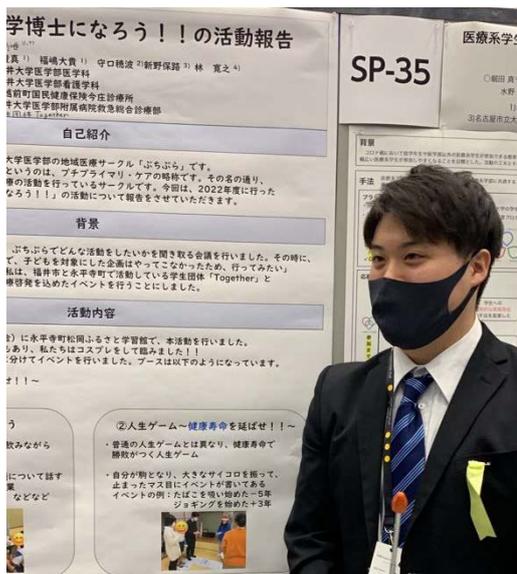
福井大学医学部附属病院総合診療部・南越前町国民健康保険今庄診療所 新野 保路

2023年6月に開催された第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会に福井大学医学部の医学生の福嶋大貴さん、看護学生の守口穂波さんが発表してくれました。それぞれ地域のこども達への医療啓発、地域医療サークルぶちぶらの活動についてポスター発表を行い、感想を話してくれました。これからも総合診療・家庭医療の仲間を増やしていきたいです。

福井大学医学部医学科5年の福嶋大貴です。この度は、JPCA2023に参加させていただきありがとうございました。

初めて学会というものに参加しましたが、こんなに面白い発表や展示があるものがあるのか!と驚きました。私が印象に残っているのは、医療とアートの学校の展示です。アートをしたり、鑑賞したりすることで、病気が緩和されることがあるのだなと感銘を受けました。自分が気づかなかった視点で、患者さんのQOLが改善するように働きかけている点がとても参考になりました。

自身の発表に関しては、とても緊張しましたが、福井から来てくれた先生や学生が応援に来てくださって、安心して臨めました。これからはどうやったらいいポスターになるのか、発表でもっと伝えるにはどうしたらいいかを考えていきたいと思っています。これからもぶちぶらで精力的に活動していきます。



福井大学医学部看護学科2年の守口穂波です!今回はJPCA2023に初めて参加させて頂きました。1番記憶に残ったことは「出会いの数」です。普段、大学というある意味閉鎖的な空間で生活しておりますが、今回の学会を通して沢山の方と出会い、新たな発見や学びを得ることが出来ました。それが刺激的で貴重な体験でした。また、初めての学会発表とあって、自分の順番まではガチガチに緊張していましたが、周りの助けもあって無事終えることが出来ました。また、次回も是非参加させて頂きたいです。



🐞 総合診療・総合内科センター 「Choi+」、 「こしょべん」

合同勉強会を開催!

普段の勉強にちょいっとプラスする医学生勉強会: 「Choi+」こそっと勉強する初期研修医勉強会: 「こしょべん」
今回はハイパー、デンジャラス、エクストリーム講師をお招きしてのエコー勉強会!!いやあ〜盛り上がりましたよ。



 総合診療・総合内科センター General 道場「修了書授与」、「ど~しよう会」を開催！！

Global General Good Doctor！！我々がトリプルジーセンターから世界に向けてのプロジェクト。

1. 新たに2人の門下生が道場を卒業🔥🔥🔥 院外研修とど~しよう会への参加。これで君も一流の仲間入り👍



2. 総合診療医育成所の症例(人生)相談会。4月からは新たな仲間も加わって新旋風を巻き起こす！？🤔🤔🤔



 総合診療・総合内科センター JPCA2023にてインタラクティブセッションを開催！！！！

その名も「実践メディカルクイズラリー！～福井発、知恵と技術と愛の pot-pourri～」

ご参加頂いた皆様ありがとうございました～

第14回日本プライマリ・ケア連合学会



総合診療・総合内科センター **市民公開講座**を開催しました

福井市民公開講座2023！！ **医者選び、心肺蘇生、日焼け**と盛りだくさん。大盛況でしたね～♡



●静岡県

報告

1) 静岡家庭医養成プログラム『医者 Well-being』ワークショップ

第1回 3月2日(木)13時30分～14時30分

第2回 3月9日(土) 14時15分～15時45分

ミシガン大学の Sahoko Hirano Little 先生によるウェルネスに関するレクチャーを2回シリーズで開催しました。

和やかな雰囲気の中、個人ワーク、グループワークを通して自らの「well-being」を向上させるために取り組むべき目標について考えることができました。今回立てた目標についてはプログラムとしても定期的に見直す機会を設けていきたいと思っております。

2) 菊川市家庭医療センター活動報告:「m3.com 地域版」にインタビュー 掲載！

菊川市家庭医療センター センター長 松田真和医師のインタビューが m3.com 地域版で配信されました。

<https://www.m3.com/>

※医療従事者向けサイトのため、閲覧にはログインが必要になります。

全2回にわたって、外来と在宅を両立しながら年間85%以上の在宅看取りを行う当センターの様子を紹介しています。地域に親しまれている(通称)あかつちクリニック！

進路に悩んでいる医学生/初期研修医の方にも是非読んで頂きたい内容となっております。

・2023年2月17日(金)配信 m3.com 地域版

【静岡】外来と在宅を両立しながら年間70人を看取り、在宅看取り率85%を実現-松田真和・菊川市家庭医療センター所長に聞く◆Vol.1

・2023年2月24日(金)配信 m3.com 地域版

【静岡】「ぶっちぎりの全科診療を実践するための臨床力」が身につく研修とは-松田真和・菊川市家庭医療センター所長に聞く◆Vol.2



3)御前崎市家庭医療センターしろわクリニック活動報告:広報誌「はまかぜ」へ特集記事掲載

御前崎市家庭医療センターしろわクリニック指導医の綱分信二医師の記事が、市立御前崎総合病院広報誌「はまかぜ」に特集されました。何気ない診療中の会話の中に家庭医療学の9つの原理が各所にちりばめられています。今後も地域の皆さんに寄り添う医療を提供できたらと思います。

(以下掲載内容)

特集:疾患を理解しましょう

家庭医は家族みんなを診療しています。(御前崎市家庭医療センターしろわクリニック家庭医:綱分信二)

診療の様子を紹介しつつ家庭医療学の9つの原理をお伝えしたいと思います。私たちは外来や在宅の場でケアを提供しています。

【症例】気管支喘息で定期通院されている山本良輔(仮名)さん36歳男性。妻、小学生の子供二人、両親、祖母と同居。88歳の祖母信乃(仮名)さんは、認知症が進んでいます。

看護師さん:次は喘息で来院されている山本良輔さんです。最近咳が長く続いているそうです。それから、おばあちゃんの信乃さんが、認知症で困っているってご家族から伺いました。

家庭医:そうなんですね。では診察しましょう。

家庭医:こんにちは。最近どうですか?(→原理①どんな健康問題にも対応する)

山本さん:先週から咳が朝と晩になると酷く出るようになって、発作時の吸入薬を使うことがありました。

家庭医:先週から発作が朝晩に出るようになったんですね。何か思い当たることはありますか?(→原理②人間に関わる。

主観的側面にも配慮。問題や困りごとは患者さんが定義する)

山本さん:先週お祭りがあって、結構疲れたのと周囲でタバコを吸う人が多くて、そのくらいから悪くなってきた感じがありません。

家庭医:疲れやタバコの煙に暴露されることは喘息発作の誘因になります。聴診上は、喘鳴は聞こえないですね。

家庭医:お祭りは楽しいですが大変ですもんね。

山本さん:そうですね。結構体力的にこたえますね。

(→原理③生活者として理解する。その人の生活の文脈や背景にも注目する。個人レベル)

家庭医:何係だったんですか？

山本さん:屋台係でした。

家庭医:それはきついですよね。(→原理④同じ地域に住み、環境要因、地域の文化について深く理解する)発作時の吸入薬を使うほどの発作が毎日ある様なので吸入ステロイドの量を増やしてみましよう。

山本さん:お願いします。

家庭医:出来るだけタバコの煙から遠ざかることですが、職場はどうですか？(→原理③生活者として理解する:個人、社会のレベル)

山本さん:分煙ですが喫煙者の人が帰ってくるとタバコの臭いはします。

家庭医:社会全体で禁煙に取り組んでもらえると良いですね。(→原理⑤リスクのある集団の一人として捉える)

山本さん:そう思います。

家庭医:山本さんは喘息がありますし、インフルエンザの感染で増悪することがあるので予防接種は是非お勧めです。お子さんもまだ小学生ですしご家族全員で接種されることをお勧めします。(→原理⑤リスクのある集団の一人として捉える、⑥毎回の受診を予防医療や健康増進のチャンスとして捉えて生かす)

山本さん:ありがとうございます。また家族で予約させていただきます。

看護師:ところで最近、おばあちゃんの信乃さんはどうですか？(→原理③生活者として理解する:個人、家族のレベル)

山本さん:あまり良くないですね。物忘れ自体を忘れていて、病院も嫌だから行きたくないって言うので受診のたびに母は苦労しています。

家庭医:そうだったんですね。受診の時は結構ニコニコされているのでそんなに大変とは知りませんでした。

山本さん:洋服も季節にそぐわないのを着るし、こっちの方がいいんじゃないと言うと怒り出してしまいます。家族もストレスが溜まっている感じです。

看護師:認知症の症状に苦慮されてらっしゃるんですね。信乃さんは高血圧症や糖尿病があるから通院はされておいた方が良いでしょう。もし病院に行くことが大きな負担になっているようなら在宅医療といって看護師や医師が自宅で診療することもできます。(→原理⑦在宅医療を提供する)

山本さん:相談に乗って貰えると助かります。

看護師:信乃さんの受信時にケアマネさんにも来てもらいましょう。(→原理⑧社会的支援ネットワークの一部になる、⑨限りある社会資源を適切に管理する)

山本さん:是非お願いします。今日もありがとうございました。

参考文献:マクウィニ一家庭医療学第3版 ぱ一そん書房 家庭医療学の原理より。



<支部運営についての情報>

● **各県の代表窓口は下記の方々です**

三重県；若林英樹、富山県；三浦太郎、石川県；吉岡哲也、岐阜県；森田浩之、愛知県；佐藤寿一、福井県；林寛之、静岡県；井上真智子

● **プログラム責任者の会中部ブロック代表**；大杉泰弘（藤田保健衛生大学総合診療・家庭医療プログラム）

● 中部ブロックの活動に関するご意見等ありましたら下記までご連絡ください。

木村 悦子（中部ブロック支部事務局） e-kimura@med.nagoya-u.ac.jp